

## 一加賀百万石博で大評判の手づくりアイス

今、金沢城公園では、大河ドラマ「利家とまつ」放映を記念して、加賀百万石博が開催されている。メインテーマは、ドラマの背景の紹介だが、同時に多数の地元名産品も紹介され、大きな反響を呼んでいる。

しかし、飲食ゾーンに限れば、わずか四店のスペースが用意されているだけであり、うち三店はだれもが知る県内の超有名店である。只アイス

## 探訪 チャレンジ企業 30

### 牧場の手づくりアイス 有限会社マルガー：能都町



地元天然素材にこだわった手づくりジェラート

クリームを販売する一店だけは開会時には全くの無名であった。しかし、期日を重ねるにつれ、商品が本来持つ価値―新鮮さ・風味の良さ・更にはアイテムの多さとユニークさ―が来場者に正当に評価されて、人気はうなぎ登りとなり、遂には「県下を代表する手づくりアイスの専門店」としての地位を確立するに至った。それが今回紹介する能都町に本店を置くマルガージェラート（社名：(有)マルガー）である。

#### 二牛乳づくりから乳製品づくりへ

イタリア語で「マルガー」とは、「牧場」を、「ジェラート」とは、アイスクリーム、アイスマルク、ラクトアイス、シャーベットなどを総称した「アイスクリーム類」を意味する。

もともと同社は、近辺で牧場を営み、乳牛を多数飼育して生乳を出荷していた。し

かし子息である店長の柴野大造氏は、生乳をそのまま出荷するだけではなく、付加価値を高めて、消費者と直結した商品を作りたいとの意欲を持ち、長年にわたって、地道な研究を重ねるとともに、東京都内のデパートにも研修し技術を磨き、遂に念願の商品化に成功したのである。開店は、平成十一年六月三十日のことであった。

#### 三地元産の牛乳と産物を使った多彩な商品群

同社の自慢の商品は、しばらくたての牛乳だけを使ったシンプルで「フレッシュミルク」と、原産地マダガスカルからさや付きで取り寄せたビーンズを使う「つぶつぶバナナ」である。

しかし、「おいしい特産品があれば何でもアイスにする」との方針を貫くだけに、販売品数は驚くほど多く、レモン、オレンジ、リンゴ、アセロラ、抹茶、コーヒ、バナナミルク、ラムレーズン、ミルクティー、クリームチーズ、チョコチップ、ヨーグルトといった定番品から始まって、季節毎の野菜や果物を使った、リゾット（新米）、マロン（栗）、さつまいも、イチゴ、イチジク、ブルーベリー



マルガージェラートの店舗工場と柴野さん一家

ー、スイカ、キウイ、黒ゴマ等々、更には一見奇抜に見える豆腐、ワカメからカキ貝、イシルに至るまで、できないものはないといった感覚がある。

いずれも牛乳とのなじみをよくし、独特の風味をもたせたおいしいアイスとして仕上げられているので、これらを順次味わっていくのは、大変楽しいことにちがいない。そして今、最も人気のあるのは、博覧会場限定の桜と抹茶のダブルアイスに金箔をふりかけた「利家とまつアイス」である。博覧会終了後も引き続き販売してほしいとの要望が多いのも、もつともなことであるろう。

#### 四夢を賭けて

##### ―未来への挑戦―

「地元産のしぼりたての牛

乳を主原料に地元産の旬の野菜や果物を使って、手づくりで作り上げた低脂肪、低カロリー、無添加のジェラート」は県内だけでなくとどまらず、全国レベルでも極めて数少ないすぐれた食品であることは疑いない。

また、百万石博での成功は、商品の知名度を著しく高めたため、卸売りの両面にわたって、今後は販売面での強力な追風となることだろう。

現在、冬期に牛乳クレープを加え、チーズも開発段階にあり、手づくり乳製品の総合メーカーを目指す同社の戦略は、「首都圏にアンテナショップを開く」という夢を決して夢だけに終わらせないだろう。

同社の果敢なチャレンジ精神に拍手を送りたい。

（お問い合せ）

有限会社マルガー

〒九二七―〇三一一

石川県鳳至郡能都町字瑞穂

一六三一一

TEL・FAX

〇七六八―六七―一〇〇三

このコーナーでは石川の「チャレンジ企業」を応援しています。取材を希望される方は最寄りの商工会をお訪ねください。